

平成 29 年度第 2 回図書館協議会

平 30 年 3 月 22 日（木）

午前 10 時 00 分～11 時 00 分

議事録

会場 門真市立図書館 2 階会議室

- | | |
|------|---|
| 出席委員 | 村上委員、木下委員、吉村委員、仲谷委員、明淨委員、東田委員 |
| 事務局 | 久木元教育長、満永教育部長、水野教育部次長、西中館長、竹本館長代理、岡本分館長、三野、野上学校教育課副参事 |
| 傍聴者 | 1 名 |
| 案件 | (1) 平成 29 年度事業について
(2) 平成 30 年度事業計画及び予算について
(3) 平成 30 年度事業計画及び予算について
(4) その他 <ul style="list-style-type: none">・ 学校連携について・ 瀬戸内市民図書館視察について・ 図書館サービス計画について |

教育長

おはようございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆さま方におかれましては公私ご多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。今年度は図書館が開設されて 40 周年ということでございまして、記念事業をいくつかやっておるところでございます。それと、読書活動の啓発と利用促進をやってまいりたいと思っております。いろいろな事業で少しでもそのようなことに効果が出ればいいなと思っておるところでございます。また、併せまして学校ですが、今年度から司書を全校に配置することができました。図書館と学校司書との連携により子どもたちの読書活動推進計画といったものが、展開というか具体化されておまして、特に、6 校で「えほんのひろば」を行うことができたことなど、少しずつではございますが進んでいるなと実感しているところでございます。

先日、新聞を見ていましたら、大学生の読書率が、まったくしない学生が 5 割以上ということで、とんでもない数字だなと思っております。やはり小学校、中学校時代から読書の癖をつけるといいますか、習慣づけることの大切さを身に染みて感じているところでございます。私も府立高校の校長をしているときに子どもたちに読書の楽しみというものをどう伝えようかなと悩んだことがあります、何のために読書をするのかといっても理屈ではないですよね。よく考えてみたら理屈ではなくてやはりぱっと読めば楽しいというか、何となく自分の中に血となり肉となりといいますか、そうになっているなということを思いますが、それを理屈で読めといってもなかなか進まないなと感じたりもしていたところでございます。

最後でございしますが。図書館サービス計画を来年度つくっていきたいと思っておるところでございます。これから関係部署と庁内会議を行いながら、またアンケートも採りながら進めてまいりたいと考えております。次年度の協議会におきましてはアンケート調査の結果報告並びに計画の進捗状況等をご報告させていただけることと思っております。また委員の皆さま方のご意見なども拝聴しつつ、素案の作成にあたりたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げて、簡単ではございますが挨拶をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。それでは案件に移りますが、その前に資料の確認をさせていただきます。本日お配りしております資料は、会議の次第、座席表、図書館年報、門真市立図書館協議会の資料といたしまして、(資料 1) 平成 29 年度門真市立図書館事業報告、(資料 2) 平成 30 年度門真市立図書館事業計画及び予算、(資料 3) 平成 30 年度図書館行事(案)の 3 点となります。不備はございませんでしょうか。それでは委員長、順次進めていただきますようよろしくお願いいたします。

委員長

そうしましたら案件 1 平成 29 年度事業について事務局から説明をお願いします。

事務局

平成 29 年度の事業報告について説明させていただきます。資料 1 の、平成 29 年度門真市立図書館事業報告をご覧ください。数字に関しては、2 月下旬のものと

なっております。まず、1 ページ目でございますが、図書館活動事業についてです。貸出冊数については、全体をみますと昨年度に比べ減少傾向となっております。この数字は2 月末のもので、3 月末までにはもう少し増加することになります。登録者数は、9 年前の睡眠利用者を除籍したところ、新規登録者分を上回ることになり、減少しております。予約については、平成 28 年 3 月のシステム更新に伴い、開架の本にもインターネットからの予約ができるようになったことで、利便性の向上から 28 年度の件数が増加しており、インターネット予約については、29 年度も増加しております。こちらは、スマートフォンの普及から若い世代の利用の増加が理由と思われます。

次に、2 ページをご覧ください。図書館協議会の開催は、前回 7 月と今回の 3 月の開催になります。図書館フェアは、5 月末に開催いたしまして、リサイクル市、おはなし会ともに利用が多く、大変好評でした。

スクリーンをご覧ください。

こちらは図書館のリサイクル市当日の様子です。朝から 100 人程度並んで、会場に入らせていただいている状態です。お子さんたちも来られていますので、お子さんたちは児童書と、付録のお子さん向けのを記念に手渡したりしております。こちらがパネルシアターの様子です。

資料に戻ります。

子どもの読書活動推進事業についてですが、図書館見学については市民プラザ分館へ多くのお子さんが来館していただきました。一日図書館員は、夏休みの行事として定着しております。職業体験学習につきましては、29 年度は市内 6 中学校のうち 4 校の参加がございました。また、学校司書提案の図書部による選書ツアーを行いました。「学校司書 図書館体験研修」につきましては、今年度新しく学校司書になった 3 人に対し、図書館業務を体験してもらいながら基本的な作業の研修をいたしました。

スクリーンをご覧ください。

市民プラザの集会室に集まらせていただいている図書館見学の、沖小学校の低学年への読み聞かせの様子です。沖小学校は、全学年、毎年図書館見学が恒例となっており、今年度は高学年に向けて調べ学習の方法を教えてほしいとの依頼があり、準備日数が限られている中、分館の司書が子どもたちにもわかりやすいように資料を作成し、このように説明いたしました。

一日図書館員の様子です。児童にはカウンター業務、またこのような本のカバー付け、装備の業務、おはなし会等を経験していただいています。こちらは中学生の職業体験の様子です。中学生には本の紹介の P O P を書いていただきました。こちらは選書ツアーの様子です。たいへん本の好きな児童が多く、このような毎日の見計らい、新しく本が届く所、また、書庫をご案内したところかなり喜ばれていました。こちらが、学校司書の研修です。同じく、毎日の図書の見計らいの様子やカバー付けなどの研修を行いました。

資料に戻ります。

3 ページに記載しております学校・園共催事業については、今年度、同じ部となり連携が深まっております学校教育課との連携事業となっております。「学校図書館司書連絡会」は図書館本館のこちらの会議室で行っており、図書館からも司書が参加し、読み聞かせ方法の指導や学校図書館の運営に活用できる図書の紹介、行事や研修の案内をしております。「学校図書館司書スペシャルイベント『ドキワク本のひろば』」については、今年度、市内小中学校 20 校全校に配置され 10 名の体制となった学校司書が協力しながら開催し、当日は学校司書が学校で声をかけた子どもたちに多く参加していただきました。「読書郵便」は、中学校図書館部が作成したイラストや文章でおすすめ本の紹介が書かれた P O P のようなものを貸し出しの際に本に挟んであり、借りた人が感想を書けるようになっているものです。

教職員向けの研修、「えほんのひろば」、読み聞かせ方法の指導については、後ほど「その他 学校連携」の報告の際に詳しくご説明させていただきます。ボランティア企画「えほんのひろば」は、昨年度からボランティアの方々がっており、図書館は面展台と本の配送をしております。

スクリーンをご覧ください。

こちらが『ドキワク本のひろば』、学校司書が主催した「えほんのひろば」の様子です。こちらの後ろに並ばれている方々が学校司書です。新しく入られた方も含めて 10 名いらっしゃいます。こちらは「読書郵便」です。ブックトラックに貼ってあるものが、生徒が書いた本の紹介の絵や文章で、それを本の間に挟んで貸し出しをするというような行事でした。

資料に戻らせていただきます。

他課等共催事業につきましては、毎年、京阪古川橋駅周辺で行われる「ラブリーフESTA」での読み聞かせと、28 年度より定例となった古川橋駅構内の女性サポートステーション W E S S での読み聞かせが行われました。こちらは会場の都合で 15 組までとなっておりますが、ブックスタート事業が行われる保健福祉センターや商業施設が近くにあり、リピーターの方がおられるなど、大変好評であると聞いております。また、今年度 10 月から、社会教育課の依頼により、土曜日の小・中学校において自習室を開設している「サタスタ」での読み聞かせを行っております。これらの事業は、依頼があるとボランティア団体に検討していただくのですが、ほとんどの依頼を受けていただいている状況となっております。積極的に活動されている中で、今年度は、ボランティアの方の増員にもつながっております。

読み聞かせ・手作り等行事を記載しておりますように例年どおり実施いたしました。4 ページの「おはなしの時間」は、昨年度、本館 374 人、分館 186 人となっており、本館で大きな減少がみられます。よく参加されていた未就学児の家族が通園など環境が変わって来られなくなり、新たな参加者が定着につながっていない

いためと思われます。「出張おはなし会」では、保育園等にボランティアの方々が訪問しおはなし会をしていただきました。今年度も、新たな小学校等からの要望があり、訪問先が増えております。夏のビデオ上映会は定着しております。「本のおたのしみ袋」は、夏の行事として昨年度より引き続き行いました。

スクリーンをご覧ください。

こちらが、女性サポートステーションWESSの読み聞かせの様子です。こちらは、「おはなしの広場スペシャル」ということで、ボランティア団体の方に開催していただいております。こちらが、「英語で楽しむおはなし会」の様子です。こちらは、手づくりあそびの様子です。こちらは「本のおたのしみ袋」を展示している様子です。

次に、資料の5ページをご覧ください。「図書館開館40周年記念事業」です。こちらは、1977年に開館し、40周年となったことを記念して行った初めての取り組みになります。

まず、8月に行った「こわいおはなし会」は、他市での開催を参考にしながら初めて行ったものですが、会場の飾り付けやチラシなど子どもたちに来てもらえるよう工夫をいたしました。当日は、こわいおはなしが好きでこわい絵本ばかり借りているという子どもなど、楽しみにしている子どもたちの参加がありました。

スクリーンをご覧ください。

「こわいおはなし会」の様子です。司書の職員とともに会場の飾り付け、箱でお墓のようなものを作ったり、おばけが飛んでいるような状態にしたりと、雰囲気づくりをしました。こちらは最後に黒い箱の中に手を入れてもらって何が入っているかというドキドキ感を演出いたしました。こちらは、帰りに、並べてある本を借りていかれる家族の方々の様子です。

こちらは「えほんのひろば」の様子です。「えほんのひろば」は面展台に約300冊の絵本や写真集を表紙が見えるように並べ、普段手に取ったことのないような本との出会いをつくり、子どもたちの読書へのきっかけづくりとして行いました。近隣の門真小学校からも1年生が先生と一緒に来場され、参加された方からは、大変好評でした。こちらは書庫開放の様子です。書庫開放は普段市民の方が見ることができない書庫を開放し、自由に閲覧していただきました。来場された方は懐かしい本や興味のある本を見つけられ、喜んでいただきました。こちらが、音楽会の様子です。「本の森の小さな音楽会」は近年図書館ではよく行われるようになった音楽会を開催する取り組みで、近隣でも守口市、寝屋川市、四條畷市、枚方市などが図書館で開催しております。来場された方からは、また行ってほしいなどのご意見をいただきました。こちらは絵本を使って詩の朗読を行いました。

資料に戻らせていただきます。

展示会は、子どもの本、一般書、ともに開館40周年を記念して「1977年」にまつわる資料を展示いたしました。ミニ展示につきましては様々な工夫を行い、資料を集めております。現在、展示中の「大人が読んでも楽しい子どもの本」、100

歳前後の方が書かれた本を集めた「アラハン特集」などは、展示をしてもすぐに貸し出しに出てしまうような状況となっております。

10 月には、ティーンズコーナーを中高生が興味を持てるようなレイアウトに変更しました。また、誰もが読書を楽しめるように、写真や絵・短い言葉などで構成されたＬＬブックコーナーを設けました。3 月には、「認知症を知るコーナー」を設置しております。

スクリーンをご覧ください。

児童書の展示となっております。こちらは分館で行っている展示の様子となっております。こちらは一般書の展示です。こちらがティーンズコーナーの展示となっております。職員の息子さんと、絵を勉強されている方がいまして、ティーンズの皆さんにも喜んでいただけるような絵を使わせていただいております。こちらはＬＬブックコーナーに置いている本です。まだ資料としてはあまり揃っておりません。

資料に戻ります。

「おはなし・ボランティア養成講座」では、「読み聞かせ&ブックトークをはじめよう！」が行われ、ボランティア、学校図書館司書などの参加がありました。また、ほかにも以下の通り、実施、計画されております。

6 ページをご覧ください。出前講演会は、例年どおり門真市内公立の幼稚園 2 園で実施いたしました。また、2 月の休館日には、図書館職員、司書を対象に「著作権について」研修を行いました。

スクリーンをご覧ください。

こちらは「親子で楽しむ読み聞かせ講座」です。市民プラザで行われました。こちらは出前講演会です。幼稚園に赴いて保護者の方に講座をしていただいております。

最後に、生涯学習支援事業といたしまして、朗読ボランティア養成講座です。こちらは毎年実施しておりますが、朗読ボランティアの養成と同時に朗読技術の向上を図っております。対面朗読につきましては、朗読ボランティアの皆さまのご協力のもと実施いたしました。スクリーンの写真は、「朗読で楽しむ文学の世界」と題する大人のための朗読会です。対面朗読ボランティアの方の発表の場ともなっており、初夏と秋の行事として定着しております。

以上が平成 29 年度の事業報告でございます。よろしくお願いいたします。

委員長 今のご説明で何か質問などございますでしょうか。はい、お願いいたします。

委員 ご説明ありがとうございます。ボランティアさんがなかなか、あるいは次の世代の方が、ということを経回委員会でも課題だったかと思いますが、今回、資料 3 をご説明のときにボランティアさんが増えたのご報告をいただきましたが、それは資料 6 の朗読ボランティア養成講座からつながったのか、それともまた別途の要因、働きかけ等があったからなのでしょう。

事務局 今日も委員として参加していただいている絵本ことの葉会で、定例会や毎回すべての行事に参加ができなくても是非ボランティアの希望がある方に入っていたきたいということにさせていただいております、それで増えたと聞いています。よろしければ東田さんからお願いします。

委員 図書館でされている読み聞かせの講習会やわらべうたの講習会で、隣に座られた方に同じサークルの方たちが声をかけて、「こういう会がありますが参加されませんか」と、読み聞かせや定例会議を見学していただいております。今までは厳しかったのですが、必ず定例会に出席しないといけないというのがありましたが、自分のできる範囲で参加してくださいということに変わりまして、3名入られて、少しほっとしています。

委員 そうですか。ありがとうございます。前回も、次の担い手が課題になっているとおっしゃっていましたので。

委員 年齢的には次という雰囲気ではありませんが。増えたので、活動に安心感とか安定感があるので喜んでいきます。

委員 ありがとうございます。

委員長 ほかに。

委員 二つありますが、まず一つ目としまして、子どもさんたちへのいろいろな企画がたくさんありまして、なかなか楽しそうだったというご報告があったと思います。展示をしたりすることによって、展示した本の貸し出しは多くなっているのでしょうか。

事務局 児童を担当しておりますので説明させていただきます。季節ごとなどでテーマを決めて展示をしておりますので、大人の方が、幼稚園の先生や親御さんが子どもさんに季節に合ったものを読みたいということもあると思います。借りられる方は展示されている所からごそっと借りていくということもあり、補充用に用意していたものを後から追加で出すというような作業も何回もあつたりしました。普段動いていないような本も、目に見える所に置けば動きが出るということは感じております。

委員 ありがとうございます。展示の中で「かがくの絵本」の紹介があったと思います。どうしても本好きな子といったときに物語や小説に偏りがちなところがあるのではないかと思います。子どものころは絵本でそのような科学の絵本などいろいろなジャンルのものに触れる機会があるのですが、大人になるほどなかなかそういった機会が少なくなっているのではないかと思います。周りの大学生を見ていると、普段どのような本を読んでいるのだろうと思うと、やはり物語系が

多いです。そんな中で、より高学年でも物語、小説以外の本にもきちんと手を伸ばしてもらえそうな環境づくりの一步がこういうところにあるといいなあと思います。これは感想ですが、より高学年向けの資料に関してもそうした企画展示なども進めていっていただきたいと思います。

委員長 ほかにございませんでしょうか。

委員 感想ですが、様々な対象別の事業を展開しておられまして、図書館だけではなく出前なども含めて、積極的にといたしますかたくさんしていただいていると思います。その中で、ご報告いただいた中で、5ページの、「本の森の小さな音楽会」の写真も見せていただきました。ほとんどの催しはこの会議室や、閉じられた空間といいますか、ふらっと来た人には図書館でこんなにいろいろなことをなさっているのがなかなか目につかないといいますか、知っていただけないのはもったいないかと思いましたので、例えばですが、音楽会のようなイベントを閲覧室で行うとか、図書館でこんなにいろいろなことをしているよということを見ていただくためには、催しによってはほかの利用者の方への配慮もいるかと思いますが、あえて閲覧室でというような事業もあってもいいのではないかと感じているところです。

委員長 ほかに何かございませんか。

委員 学校司書を全校に配置されたということで、それは本当によかったなと思っています。お尋ねしたいのは、その学校司書さんの契約というか、待遇といいますか、何年連続で勤められるかなどはどのようになっているのでしょうか。

事務局 非常勤嘱託職員として1年間ごとで契約させていただいております。時給ということで5時間を限度として配置をさせていただいている状況です。1年間ごとですが、資格を持っていらっしゃる方がなかなか見つからないということもあり、連続5年間を目途にそのまま契約を続けているという状況です。

委員 5時間を限度というのは、1日5時間ですか。

事務局 はい。2校兼務しておりますので、各校に1日5時間という形でしております。

委員 そうすると、今全校配置という形になりましたから、来年度からは1校に。

事務局 1校ではなく、また、門真市には小・中学校合わせて20校ありまして、司書が10名ですので、1人で2校配置になっております。

委員 2校を担当することになるんですね。分かりました。厳しいところですね。

事務局 はい。なかなか厳しいですが。

委員長 ほかにございませんでしょうか。
それでは案件2に移ります。平成30年度事業計画及び予算について事務局から説明をいただきます。

事務局 続きまして、1枚ものになりますが、資料2「平成30年度門真市立図書館事業計画及び予算」をご覧くださいませでしょうか。今年度予算、事業内訳と前年度予算との増減を記載しております。
図書館活動事業といたしまして、主なものとして図書費がございます。図書費につきましては、分館の図書費10万円減額となっており、本館・分館あわせて1,420万円となっております。そのほか、前年度に引き続き、他市図書館視察に伴う予算として需用費等の中に、旅費、通行料の予算が含まれております。
続きまして、中段あたりでございます。子どもの読書活動推進事業といたしまして、従来からの「おはなしの会」などがあります。
生涯学習支援事業といたしましては、「朗読ボランティア養成講座」、「朗読で楽しむ文学の世界」を実施いたします。
「学校等読書活動推進支援事業」につきましては、委託業者により市内の学校等に図書館資料を学期初めと学期終わりに配送・回収する事業であり、28年度から始まり、継続して行うこととなりました。予算額は28万9千円となっております。
新規の予算といたしましては、下の部分の三つでございます。、「図書館サービス計画策定事業」につきましては、印刷製本費と通信運搬費の7万7千円となっております。
「読書環境の充実」といたしまして、図書館内の照明をLED照明に取り換えを行います。使用料及び賃借料としまして、88万6千円となっております。
最後に、「データベースの活用」といたしまして、現行法規のオンラインデータベースを導入し、加除式の紙媒体資料からデータベースに変更することにより、現行法規に加え判例なども効率的に検索可能となります。使用料及び賃借料といたしまして、25万9千円となっております。
これらに代わり、紙媒体での現行法規や取替え用の蛍光灯などの購入を取りやめることになり、消耗品費（新聞・雑誌等）が減額となっております。
また、ブックスタート事業につきましては、対象者の減少から減額となっておりますが、ボランティア団体の活動の場が広がっていることから、読み聞かせに対し報償費8千円が増額となっております。
以上、簡単ではございますが、30年度の予算につきまして報告を終わらせていただきます。
続きまして、平成30年度の行事予定を三野から報告させていただきます。

事務局 来年度の行事計画をご報告いたします。
資料3の「平成30年度図書館行事（案）」をご覧ください。確定しておりますのは、6月までの部分となっております。
4月の子ども読書週間には、「しゅっぱつ！何にのっていく」と「ともだち絵本」

のテーマのもと、子どもの本展示会を行います。本館では、4月10日(火)から4月26日(日)まで、分館では4月28日(土)から5月13日(日)まで行います。4月22日(日)に分館で、午前には毎年恒例の絵本を中心としたおはなし会「絵本の好きな子よっといでパート17」、そして午後には、大阪国際児童文学振興財団総括専門員の土居安子先生を講師にお迎えし、講座「新しく出版された子どもの本」を開催します。土居先生は、読書活動や日本児童文学史に関する研究、そして読書活動に関わる研修や講演会等も行われております。また、児童文学のノーベル賞とも呼ばれる「国際アンデルセン賞」の選考委員も務めておられます。4月の講座では、最近出版された子どもの本の紹介をしていただきます。また、6月と秋ごろには、本館で一般向け行事として「朗読で楽しむ文学の世界」を開催します。

例年行っている図書館フェアについては、週末の5月26日(土)と27日(日)に開催の予定です。

学校関連では、市内幼稚園に出前講演会を行い、要望に応じまして、随時、出張読み聞かせなど学校訪問を行ってまいります。また、夏休み、冬休み、春休みの学校休業時には絵本の読み聞かせを中心としたおはなし会、手づくり遊びなどを行います。これらは、ボランティアの方々との協働による行事です。

秋以降には、乳幼児と保護者向けに絵本を通じた親子のふれあいを目的とした講座や、ボランティアの方のための講習会を予定しております。

定例の行事としましては、下枠内に記載しておりますように、本館・分館ともに、水曜日・土曜日の読み聞かせ、乳幼児向けには、月に1回、「赤ちゃんふれあい絵本タイム」と、ブックスタート会場での読み聞かせを行っております。

このほか、検討中のため資料には記載しておりませんが、今年度、図書館開館40周年記念事業として実施しました「夏休みこわいおはなし会」や「本の森の小さな音楽会」、「書庫解放」は大変好評でしたので、同様の行事を30年度にも開催したいと考えております。

もう一つ、こちらは初めての取り組みとなります、大阪樟蔭女子大学の学生と連携して、図書館で、お話や手づくり遊びを取り入れた子ども向けの行事を秋ごろに開催を予定しております。

以上で行事予定の説明を終わります。

委員長 ありがとうございます。今、二つの説明がありましたが、何かご質問はありますか。

委員 ご報告いただいた事業以外ですと、ホームページ等での情報で知り得ていることなのですが、昨年の4月からでしょうか、国立国会図書館のデジタルコレクションが参考資料室で利用できるようになったということですが、その利用状況というか、どれぐらい反応、反響があったか教えてください。

事務局 4月から行っている国立国会図書館のデジタル送信サービスですが、歴史的音源に関しましては自由に使える状態となっておりまして、数字としては把握できておりません。聞かれたことに対して答えたということであれば1件は把握してい

るところです。デジタル送信サービスは今のところ5件把握しております。こちらに関しましては5件のうち3件、複写依頼があったと聞いております。

委員 ありがとうございます。

委員長 ほかにありますでしょうか。

委員 子どもの読書を活性化する取り組みはかなり充実してきていると思いますが、大人をどう引き付けるかというところの企画や、行事以外の取り組みなど、来年度、特に力を入れたいと思っておられるものがありましたら、ご紹介いただきたいです。

事務局 大人向けの行事もしくは取り組みになりますが、後ほど報告はさせていただきますが、瀬戸内市民図書館の視察に行かせていただきまして、コーナーの作り方を利用者が考えられるような分類分け、テーマ分けをされているということで、本市においても利便性というか利用者の方が介護に興味があるということであれば、介護の369の老人福祉のあたりにも594の家庭看護の本と一緒に置くというような工夫はしています。また、認知症にやさしい図書館という取り組みが全国的に少しずつ広がってきておりますので、「認知症を知るコーナー」も先日、蔵書点検終了後にコーナーを設けました。音楽会に関しましても、今まであまり図書館に来られていない、足を運んでいないような方も、音楽会に興味を持たれて来られたという経緯もありますので、そのあたりに関しましても引き続きやっていけたらと考えております。以上です。

委員長 ほかにございますでしょうか。
では次の案件にいきたいと思います。案件3その他について事務局から説明をお願いします。

事務局 まず、学校連携について報告させていただきます。
先ほどの報告で少し触れさせていただきましたが、初めて行った事業として詳しく説明させていただきたいと思います。
まず、教職員向けの研修です。

スクリーンをご覧ください。

脇田小学校より、学校図書館のリニューアルを行って十進分類法にならった配架になったので、新学期が始まる前に生徒たちへ指導するため教職員に向けて研修をしてほしいとの依頼がありました。

このように、分類に分けてきれいに配架されております。研修では、1年生から6年生までの子どもたちへ分かりやすく説明ができるように、分類を理解できるような資料を作成いたしました。

また、図書館の利用方法を紙芝居で作成している学校司書がいましたので、その紙芝居を基本として、パソコンで作成し、これからどの学校から要求されても

提供できるようなものにしました。

こちらが、当日の様子です。

おもちゃ箱におもちゃを片付けるようなイメージで分類の説明をしました。

こちらが、先生方にも体験していただいた様子です。

次に、「えほんのひろば」です。

28年度に、「えほんのひろば」を普及されている講師の方に教えていただき、今年度、図書館本館では1週間にわたり開催いたしました。「えほんのひろば」の本や写真集は、子どもたちに本の楽しさを知ってもらい、自分自身がたくさんの本の中から自由に選んでお気に入りを見つける喜びを感じてもらうために、講師の方が厳選されたものを中心として司書が選んだ上で行っております。

子どもたちの喜ぶ様子や、気になる本を発見したときの反応から、ぜひ、もっと多くの子どもたちに体験してもらいたいと、近隣の小学校へ説明にあがり、協力していただけるようお願いしたところ、図書館本館での「えほんのひろば」を体験された門真小学校で11月の開催が決まりました。

学校教育課と連携しつつ、前日に小学校へ行き会場の準備を行い、当日2時間目から放課後まで開場いたしました。会場は、いつもの学校とは違うことを演出するため、本以外のものはできる限り隠し、飾り付けを行いました。

こちらが当日の様子です。子どもたちは、入ってくるといろいろな本に目をうばわれながら、まず、初めに手に取るものを決めるようです。

司書が「寝転がって読んでもいいし、お友達や先生にも面白い本があったら教えてあげてください。」と説明し、本を選ぶように促すと、皆、目当ての本の所へ駆けよります。

図書館からは、寝転がれるようにマットを持っていくのですが、皆、自由な恰好で好きな本を手に取り、お友達と楽しむ子や、先生や司書に読んでほしい本を持ってくる子どもがいます。

当日、教頭先生から校内放送で「えほんのひろば」の開催をお知らせしていただくなど、授業のなかった高学年にも来場を促してくれたことから、休憩時間や放課後にもたくさんの子どもたちが来場してくれました。中には、自発的に6年生が1年生に読み聞かせをしてあげる姿も見られました。

子どもたちに、終了後、「お気に入りの本はありましたか」と尋ねると、ほぼ、全員が手をあげてうれしそうに見つけた本を教えてください。中には、図書館で背のタイトルしか見せていないときはなかなか借りてもらえない本もあり、子どもの声と反応を見ることで司書の経験につながり、勉強にもなります。

1月以降は、学校教育課や学校司書との連携により、5校で開催いたしました。

こちらの小学校では、1年生から6年生まで参加しました。「えほんのひろば」で見つけたお気に入りの本を後日図書館に借りにきてくれた子もいました。学校司書は、「えほんのひろば」の開催案内を作成し校内に掲示してくださるなど積極的に周知してくださいました。

こちらはまた別の小学校で、こちらでも1年生から6年生まで参加しました。高学年の子どもたちも「面白かった」「ずっと見ていたかった。」と言っており、楽しんでいたようです。

こちらでもまた別の小学校です。子ども同士の読み合いや、面白い本を見つけたら先生や友達に、走って教えにいている子も見られました。授業中に来た子が放課後もやって来て、終了時間まで楽しんでいました。終了後には放課後に来てくれていた子どもたちが私たちの片付けも手伝ってくれることもありました。

こちらでもまた別の学校です。子どもたちはもちろん、先生も「えほんのひろば」を実際に見て、体験して、「こういうことがやりたかった」、「良い取り組みだと思います」と感じてくださる方もおり、授業中だけでなく休み時間も、先生だけでも足を運んで見てくださる方などもおりました。

こちらの学校では音楽室で開催させていただきました。1年生に読んであげている6年生のグループがたくさんできており、とてもほほ笑ましい光景でした。

すべての学校でですが、体験した子どもたちからは、「あしたも来るの?」、「借りたい本があるから、図書館へ行く」との声を聞くことができ、学校からは、「普段、無口な子が楽しそうに本のことを話してくれた」、「ぜひ、一年に一度開催してほしい」などの声をいただきました。

学校では、空き教室を用意できない所もあるので、市内、全校での開催は難しいかもしれませんが、図書館から遠い地域を中心に30年度も開催していく予定にしております。

最後に、こちらは、脇田小学校で行われた、読み聞かせ方法の指導です。学校教育課より、第四中学校の生徒が脇田小学校で読み聞かせを行うことになったので、本番前に読み聞かせの基本を生徒たちに教えてほしいとの依頼がありました。司書が脇田小学校へ向かい、第四中学校の生徒たちに対して、「本を選ぶときには自分が楽しいと思う本を読んだ方がいい」とアドバイスするなど読み聞かせの方法を指導いたしました。

以上で、学校連携の報告を終わります。

事務局 続きまして瀬戸内市民図書館についてです。

8月に、瀬戸内市民図書館へ図書館サービス向上のため、視察へまいりましたので、ご報告させていただきます。瀬戸内市は、岡山県南東部に位置しており、人口は約38,000人、面積は、125.5㎢、海に面している市となっております。瀬戸内市民図書館もみわ広場は、平成28年6月に開館しております。延床面積は約2,400㎡、収蔵冊数は20万冊、開架が12万冊、閉架が8万冊となっております。蔵書冊数は29年3月末時点で147,460冊。人員体制は、職員が館長を含め6人、臨時職員である司書が5人の計11人となっております。

22 年に示された整備方針に基づき 23 年に準備室が設けられ、館長候補が着任。学校図書館に司書を配置、保育園、幼稚園に巡回車で訪問するなど、活動を広げる中、市民の意見を整備計画に活かすためのワークショップを重ね、開館されました。「もみわ広場」の「もみわ」とは、市民の皆さんが「もちより、みつけ、わけあう」広場として名づけられたそうです。

館内は、近年の新しい図書館に見られるように、明るく開放的なイメージとなっており、入ってすぐのホールには、もみわカフェと名づけられた飲食ができるスペースがありました。こちらでは、障がいがある方の就労支援を目的とした定期的な食品販売も行っているとのこと。

図書と郷土資料の融合的な展示を行っており、瀬戸内市出身の糸繰り人形師、竹田喜之助を顕彰するコーナーが設けられています。

ほかにも、縄文初期から江戸中期までの出土品などを展示していました。こちらは床に展示してある土器です。こちらも、発掘された資料となっております。本の配架については、十進分類法どおりに並べるだけではなく、利用者が関連して考えられる分類ごとに配架場所を工夫してコーナー作りをされています。

こちらは、「認知症にやさしい本棚」となっており、地域包括支援センターと連携した関連講座の共同開催も計画されています。

棚にある表示については、市の特産物であるオリーブの色を配色したものを使い、見やすく工夫されていました。

こちらは、1 階の読書テラスです。

こちらは、スタディールームとなっている自習ができる部屋です。入り口付近は、カフェコーナーがあり、にぎわいゾーンとなっているので、音が気になる方にはこちらの部屋を案内するそうです。また、市民のワークショップで中高生から提案のあった、4 人ぐらいでグループ学習ができる「チャットルーム」が設けられていました。

こちらの「e ラーニングルーム」は、放送大学の講座をパソコンで受講するための部屋になっています。

書庫は手動式ですが不都合はないとのことでした。

このように、壁面には、市民の皆さんの手づくりのタイルが貼られています。図書館基金への寄付を集める目的で、ブックカバーやクリアファイルなどを製作し、販売されています。29 年 1 月には、図書館友の会「もみわフレンズ」が創設され、図書館での各種活動へのサポートについて協議されているとのことでした。

瀬戸内市民図書館は、今年度、「Library of the Year」の大賞を受賞され、全国的にも注目されているところです。この賞は、これからの図書館を示唆するような、先進的な取り組みを行っている機関に対して授与されるもので、6 年間に及ぶ的確な図書館整備プロセスと、これからの図書館サービスのモデルを示したこ

とを評価されております。

この視察を通して、本市においても、利用者の立場に立った、テーマ展示や、配架の工夫などを取り入れ、市民の意見を聞いて図書館サービスの向上につなげていきたいと考えております。

報告は以上です。

事務局 3点ご報告がございます。まず1点目ですが、サービス計画について。こちらに関しましては、図書館利用者のニーズを把握するため、来館者に対しましてアンケート調査を行い、現状及び課題を抽出した上で、目指すべき方向やサービス内容を示した計画を30年度に策定いたします。今後のスケジュールについては、庁内会議を4回開催し、図書館協議会からの意見聴取、市民パブリックコメント募集を得て、31年3月策定となっております。

2点目でございます。ボランティア活動要綱ということで、29年度の図書館協議会におきまして委員の方からご意見等がございました認定証の件についてですが、ボランティアの方々の活躍の場が年々多岐にわたり増加していることから図書館といたしましても検討いたしましてボランティア活動要綱を作成し、登録を行った上で認定証を交付することといたしました。この要綱は、図書館活動に関心を抱く者に対しまして、図書館ボランティアとして参加の機会を設け、市民参加による図書館活動の活性化及び生涯学習の機会の充実を図ることを目的としております。

現在、30年4月1日から施行できるように準備を進めております。もう少しお時間をいただきたいと思います。ご用意できましたら、ボランティアの方々にお伝えするとともに、次回の図書館協議会においてもご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

3点目につきましては、生涯学習複合施設の件についてです。先日、総合教育会議におきまして、市長より、生涯学習複合施設に関しまして、急激な人口減少に伴い、厳しい財政状況などを踏まえ、現計画を再検討してほしいとのご意見がありましたので、この場で報告しておきます。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。その他の案件について三つ説明がありましたが、何かご質問などはございますでしょうか。

委員 図書館サービス計画についてということで来館者アンケートもされるということですが、この図書館サービス計画は、そうしますと、新しい複合施設というのはその中に盛り込まずに、現状の図書館において行うサービスの計画ということですね。

事務局 はい。先生がおっしゃっているとおり、複合施設に関しましては盛り込まずに、現状のサービスについての現状と課題を抽出して、これからやっていくべきサービス内容について記載した計画となっております。

- 委員 その際に、来館者アンケートをされるのはいいと思いますが、やはり、来館しない方がどう思っているかということももう少し広く、パブリックコメントではなく、何かほかのアンケートと一緒にでもいいのですが、地域の方々の意見をすくい取れる、簡単に聴取できるような方策もあったほうがいいのではないかと思います、そのあたりは何かお考えでしょうか。
- 事務局 以前、複合施設の計画を策定する際に、市民に対して抽出いたしまして、図書館に関連する部分に関しましてもアンケートを取っております。資料としましては古くはなっておりますが、そちらは市民全体に行ったアンケートですので、今回は図書館サービスの向上のためという計画になりますので、来館者をお願いしようという判断になりました。
- 委員 前に取ったのは、何年前でしたか。
- 事務局 策定したのが平成 25 年 3 月なのでアンケート自体はそれ以前、24 年 9 月です。
- 委員 分かりました。
- 委員 瀬戸内市民図書館を視察なさったので、生涯学習複合施設につながってなのかなと期待して聞いてしまいました。私も見学させていただきまして、竹本さんがおっしゃったように本当に素晴らしい図書館だと感じているところですが、生涯学習複合施設が財政難による見直しということをお聞きする前に感じたということで、瀬戸内市民図書館はやはり、館長がおっしゃるのは、市民が参画するワークショップを重ねて開催して、それを反映したというところが、今の素晴らしいサービスにつながっていると思いますので、複合施設の進み具合がストップといいますか見直しがかかっているということかと思いますが、例えばハードはもう少し先のことになるとしても、来館者アンケートももちろん大事なことだと思いますが、何か市民の方々が、ボランティアでもなくあるいはヘヴィ・ユーザーの利用者さんという立場でもなく、瀬戸内市民図書館のことをヒントになさることはほかにもいろいろあるかと思いますが、何か参画していただくようなワークショップを重ねてなさるというようなことも手間かとは思いますが、是非、ご検討いただいて、今後の望みをかけて。瀬戸内市民図書館も生涯学習センターに隣接している、いわゆる複合施設かと思いますが、蔵書規模も近いです、門真市さんに。そのようなことで、すぐにということではなくてもご検討いただければと思いました。
- 委員 ボランティアの登録で認定証を発行してくださるということで、ありがとうございます。皆、高齢化が進んできてヨレヨレしながら、このところ少し疲れ気味なので、励みになると思います。メンバーも 3 名増えて、また新たな気持ちで読み聞かせができると思うので、ありがとうございます。
- 委員長 ほかにございませんか。

ほかにはないようであれば、以上をもちまして本日の議案について終了し、平成 29 年度第 2 回門真市立図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。それでは事務局へお返しします。

事務局 では、最後に部長より閉会のご挨拶を申し上げます。

部長 教育部部長の溝永でございます。本日は委員長はじめ委員の皆さま方には何かとご多忙の中ご参加いただきまして誠にありがとうございました。ご審議の中で賜りました貴重なご意見につきましては今後の図書館運営にしっかりと活かしていきたいと考えております。事務局から報告がありましたように、次年度は図書館サービス計画、あるいはデータベースの導入など新しい事業に取り組んでまいります。また次年度も引き続き小学校におきましては、「えほんのひろば」を開催するなど学校との連携をしっかりとやっていきたいと考えております。全国学力学習状況調査の中に児童生徒質問集というのがございまして、子どもたちにアンケートを取りますと、門真市の子どもたちは読書に対する意欲といいますか、読書量、読書時間と申しますか、全国平均に比べて低いという現実がございます。このような中で子どもたちにしっかりと読書に対する楽しさを教えていくことは非常に大切だと思っておりますので学校教育課と連携しながら、そのようなことも進めてまいりたいと考えております。また、村上委員からもご指摘がありましたように大人に対するものそういったところも、当然そのようなことも充実させていかなければならないと考えているところでございます。今後とも皆さま方には格別のご支援を賜りますようによろしくお願い申し上げまして、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

事務局 それでは以上をもちまして平成 29 年度第 2 回図書館協議会を閉会いたします。委員の皆さま、本日はご参加いただきありがとうございました。